

## ガウス賞受賞記念寄附研究部門の設置について

京都大学数理解析研究所に、本年2007年10月1日より、寄附研究部門"Itô Research Division of Mathematical Analysis"が設置されました。設置期間は2010年9月末までの3年間で、日本語の正式名称は、「伊藤博士ガウス賞受賞記念（野村グループ）数理解析寄附研究部門」です。数学としては国内初の寄附講座・寄附研究部門と思います。同時に京都大学経済研究所に設置された「伊藤博士ガウス賞受賞記念（野村グループ）数理ファイナンス寄附研究部門」と姉妹関係にあり、以下が両者合わせた設置目的です。

「伊藤清博士のガウス賞受賞の経緯と社会的影響を踏まえ、数理解析寄附研究部門では、数理解析(Mathematical Analysis)の研究を推進するとともに、高度な数理的能力を有する人材の育成に寄与することを目的とし、数理ファイナンス寄附研究部門では、ファイナンス分野の社会的影響を踏まえ、数理ファイナンスの研究を推進するとともに、高度な数理的能力を有する人材の育成、特に高度金融人材の育成に寄与することを目的とする。」[http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05\\_news/documents/070910\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_news/documents/070910_1.htm)

とくに本研究所としては、伊藤清先生が数学の本質を純粋に追究し切った結果として得られた数学的革新が、その普遍性ゆえに、工学や物理学、生物学からファイナンスに至る広範で本質的な応用を獲得したという歴史的経緯を踏まえ（『数学通信』第11巻第3号、2006年11月発行、参照）、確率解析を始めとする数理解析の深化とその展開研究を目指します。<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kenkyubu/news/kifu.html>

このような歴史的経緯は寄附者を始めとする金融界の方々にも理解され、実際、実務面では欧米に後塵を拝して来た我が国のポリシーとしてファイナンスの理論面での主導権獲得を目指し、そのためには高度な数理的能力を有する人材の育成が必須であるとの思いが寄附申込みの背景にあるようです。最近では、数学的な基礎を身につけた学生がファイナンスをやる気ならば、その専門分野を問わずにファイナンス関連企業に就職できる状況も生まれてきています。

本寄附研究部門では以下のような事業を行います。

1. 国際シンポジウムや各種研究会の開催
2. 若手研究者の育成
3. 数理解析および数理ファイナンスに関する教育活動
4. 「伊藤アーカイブ」の構築（伊藤先生の草稿を含む関係文献の電子化保存）

1に関しては、10月15－16日に最初の研究会「数論と確率論」が特別計画 RIMS 共同研究として開催され、また、2に関しては、下記のように若干名のポスドクも募集します。

なお、運営に関しては数理解析研究所内に寄附部門委員会が設置され、寄附部門担当者は、

寄附部門特任教授 Marc Yor (パリ第6大学, フランス科学アカデミー会員)

寄附部門客員教授 藤田岳彦 (一橋大学)

です。(今後の増員もあり得ます。) Yor 氏は毎年10月頃に1か月以上滞在されます。

数理解析研究所寄附部門委員会 高橋陽一郎

#### 附記 Ito Division 研究員公募

京都大学数理解析研究所では、従来からの非常勤研究員(講師(研究機関研究員))と合わせて、寄附研究部門の非常勤研究員の公募を行っています。応募者の中から設立趣意にふさわしい人若干名をガウス賞記念寄附研究部門において採用します。公募要領の詳細については、次の URL をご覧ください。締切は12月1日の予定です。

<http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>